

基準Ⅱ 教育目標

1. 観点ごとの自己評価

観点Ⅱ-1 教育理念・教育目的と教育目標が一貫しているか

点検Ⅱ-1-1 教育目標は教育理念・教育目的と一貫性がある。

【観点到係る状況】

教育理念である「高度先端医療を担うに相応しく、社会のニーズに対応できる良看護師の育成」を目指し、保助看法に従って、教育目標は前記の5項目を掲げている。

《資料（データ）》 学生便覧、教育要綱、実習要綱、授業概要、養成所案内

【分析結果とその根拠理由】

本校の理念は前記の通りであり、看護専門学校設置目的に鑑み、教育目標を看護師に相応しい「人間性」「社会的使命の自覚と自己啓発」「対象者中心の看護実践力の向上」「専門性の追求」「総合的看護の役割の自覚」の5項目を挙げており、理念、目的と目標は一貫性がある。

観点Ⅱ-2 教育目標は、設定した教育内容を網羅し、かつ最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとして示しているか

点検Ⅱ-2-1 教育目標は、設定した教育内容を網羅している。

点検Ⅱ-2-2 教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。

【観点到係る状況】

卒業時の期待像からみる教育内容・看護実践力に示すように、3年間で修得すべき内容を明らかにしていると同時に、学生便覧、教育要綱、実習要綱、授業概要を示して機会を捉え説明している。卒業時の期待像からみる教育内容・看護実践力の卒業時の到達度を自己評価させ、教育成果の資料としているが、段階的に全体・個々の把握をする必要があると認識している。

《資料（データ）》 学生便覧、教育要綱、実習要綱、授業概要、卒業時の期待像からみる教育内容・看護実践力

【分析結果とその根拠理由】

学生便覧、教育要綱、実習要綱、授業概要、卒業時の期待像からみる教育内容・看護実践力により、教育目標と教育内容、教育活動のゴールは明らかとなっている。

観点Ⅱ-3 教育目標において、目標内容と到達レベルが対応し、具体的で実現可能な目標として明示しているか

点検Ⅱ-3-1 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。

点検Ⅱ-3-2 教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。

【観点到係る状況】

卒業時の期待像からみる教育内容・看護実践力、学年別到達目標を明らかにすることで、実現可能な具体的目標を示すことができているが、日々の教育活動の中で認識できるような方策を講じ、周知することが必

要である。

《資料（データ）》 学生便覧、教育要綱、実習要綱、授業概要、卒業時の期待像からみる教育内容・看護実践力、学年別到達目標、看護師国家試験状況、就職・進学状況、平成21年度講義内容確認

【分析結果とその根拠理由】

学生便覧、教育要綱、実習要綱、授業概要、卒業時の期待像からみる教育内容・看護実践力により、教育内容の関連性は提示でき、学習活動の具体的目標となっている。またこれらの成果としては看護師国家試験状況、就職・進学状況により確認することができる。

観点Ⅱ-4 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長発達を促すための側面から教育目標を設定しているか

点検Ⅱ-4-1 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。

【観点到に係る状況】

教育目標の、「人間性」「社会的使命の自覚と自己啓発」「対象者中心の看護実践力の向上」「専門性の追求」「総合的看護の役割の自覚」の5項目には、全て看護基礎教育での修学の視点とその後の看護師としての自己成長への視点を設定している。

《資料（データ）》 学生便覧、教育要綱、実習要綱、授業概要、卒業時の期待像からみる教育内容・看護実践力、学年別到達目標、人物評価

【分析結果とその根拠理由】

各目標内容から自己成長と看護初心者としての実践力を目指して設定することができる。

観点Ⅱ-5 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として教育目標を設定しているか

点検Ⅱ-5-1 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。

【観点到に係る状況】

卒業時の期待像の項目には「看護専門職業人としての自覚と、継続学習による能力の維持・開発が生涯にわたって必要であることを理解し、努力できる」と謳っているが、継続教育の考え方は明らかにしていない。医療・看護のおかれている現状から考え方を明らかにし、明文化する必要がある。

卒業時の看護実践力に関しては技術経験録を就職先に提出し、継続教育計画に加味してもらうように働きかけている。

《資料（データ）》 学生便覧、教育要綱、実習要綱、授業概要、卒業時の期待像からみる教育内容・看護実践力、学年別到達目標、人物評価、看護師国家試験状況、就職・進学状況

【分析結果とその根拠理由】

「高度先端医療を担うに相応しく、社会のニーズに対応できる良看護師の育成」を目指し看護基礎教育を行っている。しかし、具体的な継続教育との連携に関しては明らかとなっていない。

2. 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

教育理念・教育目的・教育目標を基に、医療を取り巻く社会変化を捉えて教育内容を見直し検討を重ね、実

践している。また、卒業時の到達度を明らかにして、看護専門職として必要な知識・技術・態度を明確にし、カリキュラムの段階に沿って教育する側と受ける側が認識を統一して教育展開している。また、学生一人ひとりの確実な能力向上に向けて教員間で統一した見解で教育を提供できるように情報交換・共有し、フィードバックして育成に効果を上げている。

【改善を要する点】

教育理念・目的・目標の一貫性を図るために、社会の人々や学生が理解できるように明文化しておく必要がある。また、特定機能病院のおかれている状況の変化は著しく、新卒看護師の離職率の高さも問題となっている。このことから看護基礎教育と卒業後の継続教育への連携を明らかにすることで、学生のキャリア開発をサポートすることに繋がっていく。卒業時の期待像からみる教育内容・看護実践力の卒業時の到達度を自己評価させ、教育成果の資料としているが、今後、全体・個々の段階的な成果をデータとして構築していく必要がある。

各学年において、学生個人の成長度を毎年度の個人面接前に自己確認させ、「看護専門職に必要な資質向上のレーダーチャート」「個人目標シート」で到達度の自己評価をさせている。教員は学生と面談をした後に指導目標を毎学年ごとに立て指導の統一を図っている。さらに、毎日のミーティングでは指導上統一した見解が必要な学生の報告と検討を行っている。

同時に、各学年の担当教員は3年間同一教員で担当しており、3年間の成長度合いが認識できる利点を活用し、学習・実習とクラス全体の状況と特徴・学生個人の状況と特徴を全教員へ情報提供している。学生の人間性の成長を統合的に判断することにおいては、単なる学科成績のみで査定することはなく、本校の目指す「良看護師育成」に向けて取り組みを続けている。現在においても、学生の自己到達度を数値で見なす方法もあるが、一つの指標としている段階である。

3. 基準Ⅱの自己評価の概要

社会の要請する良看護師の育成を目指して、関連諸法令等及び本学のおかれた役割・現状を踏まえて教育を展開している。本校の卒業時の期待像からみる教育内容には、看護基礎教育における看護師として必要な知識・技術・態度と、3年間で修得すべき内容を明らかにしており、看護基礎教育での修学の視点は教育理念と目標と一貫している。同時に、学生便覧、教育要綱、実習要綱、授業概要で機会を捉え説明している。今後も更に社会の人々や学生が理解できるように公表しておく必要がある。

教育の到達度に関しては、卒業時の期待像からみる教育内容・看護実践力の卒業時の到達度は学生に自己評価させ、教育成果の資料として教育する側と受ける側が認識を統一し教育展開している。また、学生一人ひとりの確実な能力向上に向け、教員間で統一した見解で教育提供できるよう情報を交換・共有・フィードバックし、育成に効果を上げている。今後は学年・個々の成果をデータとして構築していく必要がある。

特定機能病院のおかれている状況の変化は著しく、新卒看護師の離職率の高さも問題となっている。このことから本校での看護基礎教育と卒業後の継続教育への連携を明らかにすることが、学生のキャリア開発をサポートすることになる。